

アムスルだより

No.13 1995年 5月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

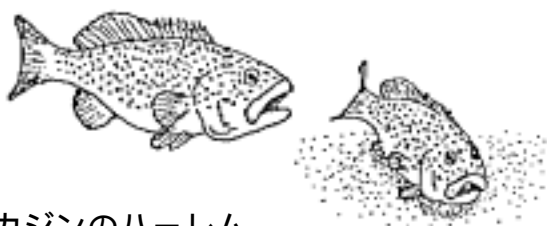


〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

TEL:098-987-2304

FAX:098-987-2875

アムスルとは、阿嘉島臨海研究所のニックネームです



アカジンのハーレム

水温が日増しに上昇し、海の中では今まさに多くの生物が繁殖の時季を迎えています。たくさんの魚の求愛行動が見られ、とてもにぎやかです。やがて、スズメダイの仲間がサンゴ礁の岩や海藻などに卵を産みつけ、ベラの仲間が水面近くで放卵・放精しているところが見られることでしょう。ハタの仲間のアカジンも今が繁殖期です。

アカジンというと、刺身やミーバイ汁にしてとっても美味しい高級魚として、ご存知の方も多いでしょう。この仲間は英名でコーラル・トラウトと呼ばれているように、サンゴ礁の海に棲む、姿がマスに似たスマートなハタで、大きいものは全長 1m にも達します。アカジンの分類は、学者の間でも混乱していたのですが、沖縄の海人(うみんちゅ)は、昔からその姿と生態の違いによって、マアカジン、クルバニアカジン、チンスアカジン、ヤーラアカジンの 4 タイプに分けていました。最近の研究では、ヒレが黒いクルバニアカジンは、ヒレが黄色く白い体に背中

から黒い鞍かけ模様のあるチンスアカジン(和名はコクハンアラ)と同一種だとされました。結局、世界には 5 種、沖縄には 3 種のアカジン(スジアラ属)が生息することになります。

慶良間の海でよく見られるのはマアカジンで、和名はスジアラと言ひ、赤褐色の体に青いはん点があります。深いところに棲んでいるものほど体色が赤いのですが、深い海ほど赤い光が吸収されるため灰色に見え、目立たなくなります。スジアラはサンゴ礁の礁斜面から続く砂地に多く生息し、魚、エビ、カニ、イカなど、サンゴ礁に棲むあらゆる生物を襲って食べることから、サンゴ礁生物の頂点に立つ魚だと言えるでしょう。一方、八重山海域でよく見られるコクハンアラとオオアオノメアラ(ヤーラアカジン)は、主に岩礁域に生息し、魚を襲って食べますが、慶良間ではまれにしか見られません。

アカジンの繁殖方法はとても変わっています。繁殖期になると十匹ほどの群をつくりますが、ほとんどの個体は雌で、群の中で最も勢力の強い大きな個体が雄に性転換して、多くの雌を従えます。この状態をハーレムと呼びます。そして、雄は 8 の字を描くように泳ぎながら、たくさんいる雌に次々と

求愛行動をとり、成熟した雌がその気になるとペアで水面に向かって泳ぎ、海中に放卵・放精するのです。阿嘉島ではアゴノハマでこのハーレムが観察されました。

アカジンは雌から雄に性転換しますが、イソギンチャクに共生するクマノミの仲間は逆で、最も強い個体が雄から雌に性転換します。このように魚の中には、まわりの状況によって性を変える種類が多くいます。これはそれぞれの魚種が、子孫をより確実に残すために選んだ戦略だと言えるでしょう。

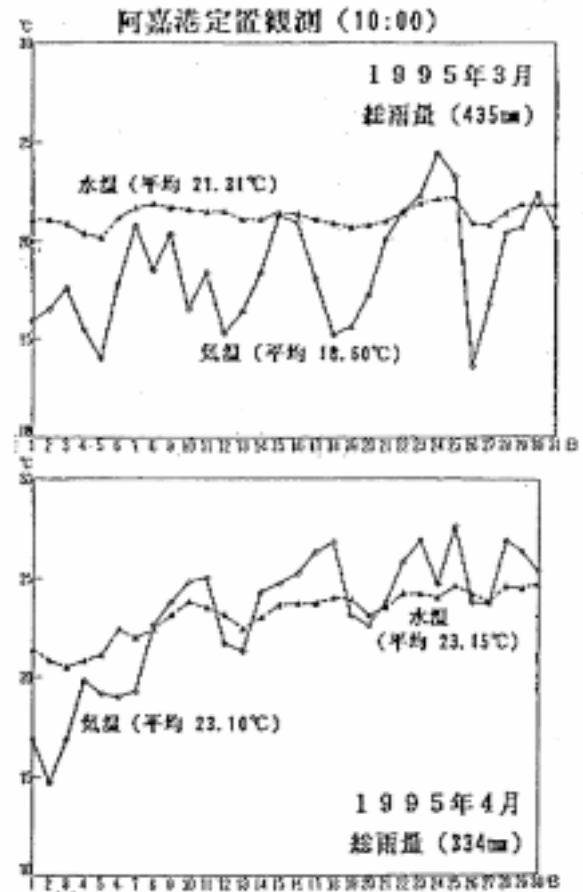
沖縄では乱獲によってアカジンが少なくなっています。最近では、人の手で卵から稚魚を育てて放流する栽培漁業の研究も進められています。しかし、こうした大型肉食魚が育つためには、たくさんの餌生物が必要です。サンゴ礁の生態系を配慮した種苗放流が望まれます。

阿嘉島の海より

-ミドリイシの産卵-

今年の3~4月は例年に比べて雨が多く降りましたが、ゴールデンウィークには好天に恵まれたため、ダイビング客も満足して帰られたことでしょう。

さて、今年もサンゴの産卵の季節を迎えました。毎年5~6月の満月の頃には、ミドリイシやコモンサンゴの産卵が見られます。今年の5月の満月は15日ですが、この時点で卵が成熟しているサンゴは少ししかないと思われ、産卵があるとすれば、満月から数日遅れて見られるでしょう。6月13日の満月の頃には大規模な産卵が起こるも



のと予想しています。しかし、昨年と比べて今年の水温上昇は早いため、今月と来月の産卵が同じような規模で起こるかもしれません。研究所ではサンゴの産卵を利用して、サンゴを増やすための基礎研究をしています。そのため、産卵データの収集も大切な仕事です。サンゴの産卵を見つけた方は、ぜひ研究所までお知らせ下さい。

研究所には先月より、大矢正樹(北海道大学水産学部修士課程修了)、岩尾研二(鹿児島大学理学部修士課程修了)の2名の研究員が加わりました。今後も、サンゴやサンゴ礁生物の研究をより充実したものにしていきたいと思っておりますので、皆様のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。